

琉球絵画研究所設立記念 & 御後絵研究 30 年の軌跡展

琉球国王肖像画

朝鮮国王肖像画描法

御後絵 × 肉理紋

う く い

ユツニムン

プロジェクト

第二尚氏 初代国王 尚円像

文彦画

琉球国王肖像画「御後絵」
歴史・現在・未来



「御後絵」×「肉理紋」プロジェクト

【第1弾】
琉球絵画研究所設立記念 & 御後絵研究 30 年の軌跡展

2020 年
3.24 [火] ▶ **29** [日]

沖縄県立博物館・美術館 (おきみゅ〜)
○展示会 3.24 [火] ▶ 29 [日] 県民ギャラリー1, 2
9:00 ▶ 18:00 (金・土曜日は 20:00 まで) 入場無料
○講演会 & 王府おもろ詠唱 3.27 [金] 3階講堂
開場 17:30 開始 18:00 ▶ 19:30 入場無料

主催 / 琉球絵画研究所 (携帯 / 080-9244-4889 e-mail / fsauto66@yahoo.co.jp)

共催 / 金城哲夫研究会

後援 / 那覇市 琉球新報 沖縄タイムス
NHK 沖縄放送局 琉球放送 沖縄テレビ
琉球朝日放送 南風原町観光協会

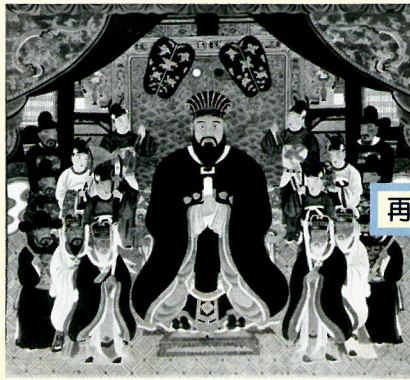
協賛 / 株式会社ジェーシーシー
ホテルバームロイヤル NAHA 国際通り
医療法人麻の会 首里城下町クリニック
株式会社クランク 桜坂市民大学
松風苑 金城哲夫資料館

助成 / NOMURA 野村財団

肉理紋による琉球国王肖像画シリーズ
「初代 尚円王」(佐藤文彦筆、2019)

琉球国王肖像画「御後絵」の再生と「肉理紋」との出会い

「御後絵」とは何か？



3代尚真王御後絵（撮影：鎌倉芳太郎、沖縄県立芸大蔵）



再生

3代尚真王（色彩推定復元、佐藤文彦筆、1996年）

■「御後絵」とは琉球王朝時代に描かれた歴代琉球国王肖像画の総称です。その起源は15世紀に始まった琉球と中国（明及び清）との冊封（朝貢）関係にあり、明皇帝の命により国王薨去後に歴代の「御後絵」が描かれていましたが、1945年の沖縄戦時にすべてが行方不明となった幻の琉球絵画です。中心に正面視の国王が大きく鎮座し左右には従者達がかしずくように描かれているのが特徴です。「御後絵」の存在を確認できるのは、沖縄文化研究者で染織家の鎌倉芳太郎（『沖縄文化の遺宝』著者）が1924年に撮影した第二尚氏初代尚円から十八代尚育までの10点のモノクロガラス乾板（沖縄県立芸術大学所蔵）のみで、現在はこの写真をもとに調査、研究、復元制作等が行われています。

「御後絵」の彩色をめぐる葛藤



14代尚穆王（色彩推定復元、佐藤文彦筆、1995年）



鎌倉芳太郎氏（1898～1988）



真栄平房敬氏（1920～2015）

■ 1990年より「御後絵」研究を続けている美術家・佐藤文彦は、鎌倉芳太郎撮影のモノクロ「御後絵」写真を元にして原寸大に彩色を施し、1996年までに10幅すべてを再生（色彩推定復元）しました。色彩に関しては、遺された尚家伝来の国王衣裳や再建された首里城を参考に再現しました。特に国王の皮弁服（龍袍）は当初赤系統の色を施しましたが、戦前に何度も原画を確認していた歴史家・真栄平房敬氏の証言により青系統の可能性もあり、赤と青両方の色彩で表現しました。

「御後絵」研究は、再生の他に歴史的背景、図像解釈、

東アジア諸国（中国、台湾、韓国、ベトナム、）との比較等多角的に行いました。2003年、佐藤はそれまでの研究成果として『遙かなる御後絵～甦る琉球絵画』（作品社）を著しました。

「肉理紋」とは



「肉理紋」描法による「李氏朝鮮第26代国王 高宗御眞」



權五昌氏（1947～）

■ 韓国でも、朝鮮王朝時代には中国との朝貢関係を結んでおり、琉球と同様に歴代の朝鮮国王肖像画「御眞」が描かれていましたが、1950年に勃発した朝鮮戦争でほとんどが焼失したとされています。宮中絵画研究所主宰の画家・權五昌氏は、朝鮮宮中絵師の子弟から「御眞」最後期の基本的描法術「肉理紋」を伝承して、国王像の模写や復元に尽力しました。「肉理紋」描法の特徴は、顔面を点描の細密彩色で写実的に表現する描法と、半平面的に表し象徴性を高める装束や装飾品等の描き方との組み合わせにあります。この描法を用いれば顔面の自然な陰影を立体的に表現して写実性を増幅させるばかりでなく、その人物の内面描写である人格、精神性をも表わすことができます。

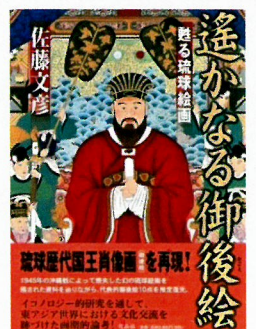
韓国の国立博物館には、權氏が描いた多くの「御眞」や肖像画が展示されています。



韓国で「肉理紋」を習得した美術家・佐藤文彦（RBC『おきでん百添アワー・ウチナー紀聞』第790章「歴史の虫眼鏡・御後絵」より）

美術家 佐藤 文彦 Sato Fumihiko

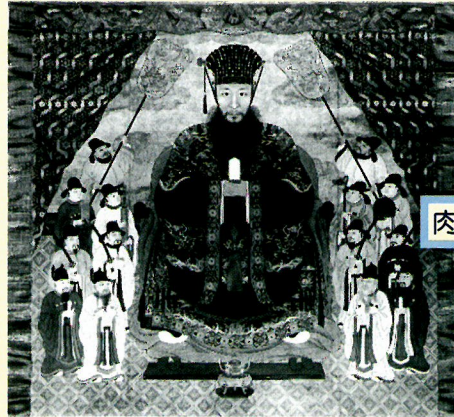
1966 東京都生まれ 1973年 沖縄移住
 1990 沖縄県立芸術大学絵画専攻卒業
 1995 東京藝術大学大学院後期博士課程修了 博士(美術)学位取得
 2000～03 日本学術振興会・特別研究員
 2013～14 平成25年度文化庁新進芸術家海外研修員（韓国・ソウル）
 2018 琉球絵画研究所設立
 現在 沖縄県立芸術大学、沖縄大学、SIBA 非常勤講師



『遙かなる御後絵～甦る琉球絵画』（作品社、2003）

幻の「御後絵」描法 = 「新・御後絵描法」で肖像画制作

■「御後絵」にも中国伝来の「伝神術」といわれる写実性を追求する技法がありましたが、王府解体に伴い伝承されないまま今日に至っています。佐藤は朝鮮国王肖像画描法「肉理紋」に中国の「伝神術」技法との関連性を見出し、2013年9月から1年間、文化庁新進芸術家海外研修員として韓国に渡り、権五昌氏に弟子入りして幻の「御後絵」描法の手掛かりである「肉理紋」を学びました。帰国後は、「御後絵」から国王のみを選び取り、習得した「肉理紋」描法による歴代琉球国王シリーズを制作、現在は「新・御後絵描法」と改めて試作を続けています。



第2尚氏 17代尚瀛王御後絵 (撮影/鎌倉芳太郎)



「肉理紋による琉球国王肖像画シリーズ」
17代尚瀛王 (佐藤文彦筆、2017年)

■ 2018年、佐藤らにより琉球絵画研究所が設立され、「肉理紋」による「御後絵」再生を中心に活動しております。また、沖縄県立芸術大学他での「肉理紋」描法の指導、「肉理紋」による国王以外の肖像画制作も行っています。

散佚の「御後絵」、原画を探索

2019年7月10日(水)『沖縄タイムス』文化面掲載

琉球絵画研究所では、「新・御後絵描法」での肖像画制作を請け負っております。ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

080-9244-4889 (佐藤) fsauto66@yahoo.co.jp

失われた国王たちの肖像

佐藤文彦

今私が傾倒しているのは琉球国王肖像画(御後絵)の再生と研究である。御後絵は琉球時代(中国(明)時代の朝貢関係の隆盛が、近代の国王肖像画の総称であるが、沖縄の歴史的勝利を経て米國へ渡り、その後消滅した。御後絵の存在が明らかになったのは近代に鎌倉芳太郎(1888年-1983年)が撮影していたモノクロ写真版で、それは1983年に出版された鎌倉の書籍「琉球文化の遺産(若波書屋)の中に収録された。私はこの写真に魅了され、1989年、東京大学大学院入学時より「御後絵」を起点とした制作を始めたのだが、もう一つの動機が重なった。その作業に際し、撮影が可能なものになった。東京上野の宿舎の窓から琉球国王の無類である向家の子孫の墓が一望できたのである。その窓から差し込む光の中で「御後絵」を描いていた。

代尚豊、其尚貞13代尚敬、14代尚穆、17代尚瀛、18代尚育までの10國の「御後絵」を含む天正時代の沖縄文化財の写真が多数残されているが、私はそれに推定彩色を施すべく、2019年、琉球絵画研究所を立ち上げた。その間、中国、台湾、ベトナムなどで、2019年には記録にない「御後絵」を描くべく、文化庁新進芸術家海外研修員として韓国に渡り、朝鮮国王肖像画(御眞)の「肉理紋」(細彩色高描法)法描き等の人物の内面、人格、精神まで表現するを学ぶべく、新たな「御後絵」再生を構築していき、くくもがの中学時代の恩師・真茶平房毅(1909年-2015年)は沖縄戦時中「御後絵」はなかったのだ。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の返還実現を 琉球絵画復興への重要資料



鎌倉芳太郎が撮影した「3代尚真王御後絵」(沖縄県立芸術大学所蔵)を佐藤文彦筆「肉理紋(ニューニムン)」による「初代尚円王肖像画」2018年作(筆者提供)



「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

「御後絵」の再生をさせた。その後約20年をかけて仕上げた「御後絵」学位論文「御後絵(琉球国王肖像画)再生(赤現代の複製)について(博士(美術)の学位取得)」。博士(美術)の学位取得。著書に「通かな御後絵、魅る琉球絵画」。

琉球絵画研究所計画

2020年3月 「御後絵」×「肉理紋」プロジェクト(1)開催

2020年4月～「肉理紋」による「御後絵」制作

琉球、沖縄偉人肖像画 制作

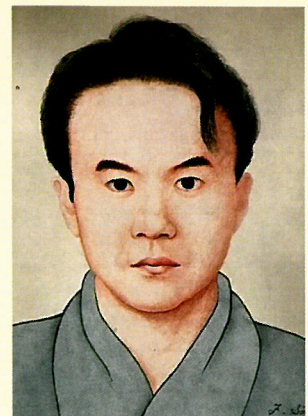
「御後絵」原画探索

「御後絵博物館」設立構想

作品例



「新・御後絵描法による肖像画」
沖縄県立芸術大学学長・比嘉康春氏



「新・御後絵描法による沖縄偉人シリーズ」
『ウルトラマン』脚本家・金城哲夫氏